

令和7年度 信濃教育会 学び創造研究会実施要項

佐久市立東中学校

1 期 日 令和7年11月28日（金） 12：40～16：50

2 会 場 佐久市立東中学校（佐久市新子田 1396 番地 1 TEL0267-67-2392）
体育館/多目的ホール

3 日程及び会場

（1）受 付 12：50～13：20

（2）公開授業 13：20～15：00（100分間） <体育館>

・共同研究者：信州大学 教職大学院 特任教授 北澤 嘉孝 様

・授業者：東中学校職員

・テーマ：『縦割り総合』による探究的な学び

※掲示用ポスター掲載文

「地域に貢献する」とは何かを考え、生徒が主体的に課題に取り組む『縦割り』
探究学習を実践しています

（3）開会行事 15：15～15：30 進行：教頭 <多目的ホール>

①主催者挨拶

信濃教育会 教育研究所部長 滝沢 克子 様

②共同研究者紹介

芝野 崇 東中学校長

③研究概要説明

浅沼 直樹 総合的な学習の時間主任

（4）パネルディスカッション

15：30～16：45（75分間） <多目的ホール>

パネリスト

○共同研究者：信州大学 教職大学院 特任教授 北澤 嘉孝 様

○生徒代表 数名

○職員代表 数名

（5）閉会行事 16：45～16：50 進行：教頭<多目的ホール>

①会場校校長挨拶

芝野 崇 東中学校長

②諸連絡

東中学校 教頭

③閉会の言葉

東中学校 教頭

（8）その他

・駐車場は、体育館西駐車場、校舎北側駐車場をご利用ください。また、満車の場合は、隣接する社会体育館駐車場と南側にある営農センター奥の広場をご利用ください。詳細は資料に掲載しましたので、ご確認ください。

・多目的ホールからお入りいただき、入り口で受付を行います。

・上履きをご用意ください。

・お飲み物は各自でご用意ください。

・「私たちのあゆみ Ver.2」の日程と変更した点があります。ご注意ください。

佐久市立東中学校

教頭 傳田 史和

TEL0267-67-2392

総合的な学習の時間 研究資料

佐久市立東中学校



全校研究テーマ

「問いを生み、自己の考えを深め、広げるための
『対話的な学び』はどうあったらよいか」

総合的な学習の時間 研究テーマ

「自分に何ができるか」を問い続ける探究的な学び

日 時 令和7年11月28日（金）

共同研究者 信州大学 教職大学院 特任教授 北澤 嘉孝 様

授業学年 全校（男子84（15）名、女子94名（11） 計179（26）名）

授業者 職員（探究的な学びプロジェクト：浅沼 直樹 林 深志 佐藤 純一 熊谷 修一）

単元名 「縦割り総合」による“探究的な学び”（全35時間）

日 程

12:50	13:20		15:00	15:15	15:30		16:45	16:50
-------	-------	--	-------	-------	-------	--	-------	-------

受付	公開授業	移動	開会行事	パネルディスカッション	閉会行事
----	------	----	------	-------------	------

- (1) 受付 12:50 ～ 13:20
ご来賓・指導者・一般参加者 【多目的ホール入り口】
保護者・地域の関係者 【体育館入口】

- (2) 公開授業 13:20 ~ 15:00 【体育館】

- 単元名 「縦割り総合」による“探究的な学び”

【参観される先生方へのお願い】
 本時は、ブース形式にて生徒との対話に参加していただく形式の授業となります。
 14 の講座ごとに、これまでの活動の成果については発表を行いますので、先生方は質問や意見、助言（＝フィードバック）をお願いします。

【参観される先生方へのお願い】
 本時は、ブース形式にて生徒との対話に参加していただく形式の授業となります。
 14 の講座ごとに、これまでの活動の成果については発表を行いますので、先生方は質問や意見、助言（＝フィードバック）をお願いします。

—————休憩・移動—————

- (3) 開会行事 15:15 ~ 15:30 【多目的ホール】

- | | | |
|-----------|---------------|---------|
| ① 主催者挨拶 | 信濃教育会 教育研究所部長 | 滝沢 克子 様 |
| ② 共同研究者紹介 | 佐久市立東中学校長 | 芝野 崇 |
| ③ 研究概要説明 | 総合的な学習の時間主任 | 浅沼 直樹 |

- (4) パネルディスカッション 15:30 ~ 16:45 【多目的ホール】

パネリスト 共同研究者 信州大学 教職大学院 特任教授 北澤 嘉孝 様
他数名（生徒・職員）

進行 佐久市立東中学校校長 芝野 崇

- (5) 閉会行事 16:45 ~ 16:50 【多目的ホール】

- ① 会場校校長挨拶 佐久市立東中学校長 芝野 崇
- ② 諸連絡
- ③ 閉会の言葉

「自分たちは何ができるか」を問い続ける探究的な学び

2 縦割りグループによる「探究的な学び」スタートに向けて（令和5年度 職員の取り組み）

本校では、これからの VUCA の時代に大きく変化する社会の中で、予測不能な未来を切り拓いていく子ども達を育てていくために、令和5年度に学校教育目標の改定を行なった。改定するにあたって、職員全体で“願う子どもの姿”を共有するために、本校の子ども達の特徴について SWOT 分析等の手法を用いて分析・共有していった。

その中で本校の生徒には

- ・幼い頃からの地域との温かな関わりの中で、素直で自主的、人懐っこく優しい面を持った生徒が育まれている
- ・その一方で失敗を恐れず挑戦することや主体性が弱い生徒が多く、自分の意見に自信を持てなかったり、対話自体に消極的であったりする傾向が見られる

という実態があることが見えてきた。

このことを踏まえてこれからの時代を切り拓いていく子ども達の姿として、

- ・自ら課題を見出し、「自分に何ができるか」という問いを持って実践する子ども
 - ・友と感動を分かち合い、“自己有用感”や“自己肯定感”を高めていく子ども
- であることが大切である、という思いを共有した。

これらを受けて学校教育目標を「未来を拓く ～主体性・挑戦・探究・思いやり～」とし、その具現を図るための重点活動として「縦割りグループ」による“探究的な学び”をスタートすることとした。

「縦割り」としたのは、前述の生徒の実態を踏まえた上で次のような仮説を考えたためである。

- ・上級生が進行役や方向づけを担うことで、下級生が安心して活動に参加できる環境が整い、結果として、互いの違いを生かし合う協働的な関係が育まれていくのではないかな。またこれによって教師の手を離れた主体的な活動として進められやすくなっていくのではないかな。
- ・学年や経験の違うメンバーが交わることで、多様な視点や刺激が生まれやすくなり、自分の意見を出しづらかった生徒にも、自然な形で対話に加わるきっかけが生まれるのではないかな。
- ・次の学年に経験や文化が伝承され、「持続可能な」活動になることが期待できるのではないかな。



「SWOT分析」による先生方による本校生徒の捉え



3 縦割り総合による“探究的な学び”のスタート（令和6年度の取り組み）

令和5年度2月に全校でのオリエンテーションを開き、これからの時代に向けて職員で共有した思いを伝えるとともに「自分たちは地域のために何ができるか」を問いとした縦割りでの課題解決学習を行うことを提示した。そのあと、総合的な学習における学習内容の分類を参考として全校へアンケートを実施し、「観光」「食」「環境整備」「文化・芸術」「福祉」「国際理解」の6分野17の縦割りグループを設定して活動を行った。

年度当初、職員は「教師側が指導しない」ことに戸惑いがあった



た。しかし、重要であることは子ども達が“アイディアを出し合うこと”という視点に立ち、5月からまずはグループごとに地域貢献のためのアイディアを出し合う活動を行った。生徒たちはグループリーダーを中心に、構想マップやICTも活用して構想を広げていった。6月以降は地域訪問や地域の方への聞き取りなど「知る」活動に力を入れていった。例えば、ある観光グループは施設訪問を通して「観光の魅力を誰にどう届けるか」という問いを持ち、食文化グループは味噌蔵見学などから「伝統的な食文化をどう未来へ伝えるか」という問いを持った。こうした過程を通して、生徒の関心は「何となくの興味」から「地域のために自分たちは何ができるか」へと変化していった。

9月の文化祭では中間発表として活動内容や成果を共有し、他グループとの質疑を通して考えを深めた。12月の成果発表会では地域の方や小学生を招き、自分たちの探究の過程と提案を発表した。

振り返りでは、「地域の方の話を聞くことで考えが深まった」「仲間と形にしていくのが楽しかった」といった声が多く、一方で「まとめ方が難しかった」「もっと地域のことを調べたかった」との反省も見られた。

教師からは、「自分たちで目標を立て話し合う力が深まった」「活動の評価・改善の姿が見られた」「計画カードの作成など、自ら計画して動く力が伸びた」といった声が聞かれた。



4 “縦割り総合” 2週目のサイクル（令和7年度の取り組み）

本年度は、昨年度の様子を踏まえて、10時間増やした35時間の探究活動を設定し、活動時間の拡充を図った。それに加え、まとまった時間をとってじっくり探究活動ができる回数が増えることで生徒の主体的な思考がより働くのではないかと昨年度の手応えから、昨年度は丸一日探究総合を行う日課を1回のみ設定したが、本年度は3時間目から6時間目に探究総合を行う日課を2回設け、2時間続きの日程も昨年度の倍の回数確保することとした。

生徒の自由な発想が自ら問いを持つことにつながると考え、本年度は生徒に「佐久地域への願い」「佐久地域の課題」「課題を解決するための活動」の3つについて自由に記述してもらい、それをAIの助けを借りながら分析・分類して「観光」「食・郷土料理」「ゴミ・環境」「スポーツ」「福祉・世代」「文化・芸術」の6分野14の縦割りグループを編成した。

クラス 番号	地域への“願い”	地域の“課題”	“課題”を解決するための活動
1-2 13	地域に住む幅広い世代の人が過ごしやすい地域づくりに貢献したい。	地域の中に幅広い世代の人が集まれる場所が少ない。	色々な世代の人から、あったら良い施設や困っていることを教えてもらって、（人が集まりそうな場所にはりこんでお話を伺う、メンバーの祖父母や兄弟に聞くなどして）まとめ、発表会などで全校に呼びかけたり、市役所に情報を伝えるに行ったりする。
2-1 16	学年、年齢を超えた関わりがほしい。	学校内での学年を超えた関わりが増えているなか校外にて他の人と交流する機会が少ないと感じた。ただでさえこの地域に住んでいる人が少なくなっているので交流がないのもつらいと思った。	保育園や世代交流館でのイベント等に参加していく。いろんな年齢の人とも関われるようなイベントを開催する
1-2 17	地域にある観光スポット（ヘルシーテラスやこども未来館、白田スタードーム）を知ってもらって来てほしい！	ヘルシーテラスを知っている人や、白田スタードームに興味を持っている人が少ないし、こども未来館は家族で楽しめるから、知って来てもらいたい。	SNSで、面白く楽しく見れる動画や調べたことを簡単にまとめた写真を投稿する。
2-2 07	佐久の特産品であるブルーンを広める！	ブルーンの美味しさや魅力に気づいていない人が多い。佐久で美味しいブルーンが作られていることを知ってもらいたい。	ブルーンの魅力を調べて発信したり、実際にイベントをしてブルーンの食べ物を売る。
1-2 34	色々な国の外国人がいっぱい来れるまちづくりやPRをして広めたい。	去年は、あんまり学校内外の活動が中止でできなかったもので、2・3回くらい学校内外の活動に全力を注ぎたい。	前回作ったパンフレットや学校で動画を取り編集してPR動画として佐久地域のどこか（駅・ショッピングモールなど）でその動画を流しPRする。
1-1 22	佐久のスイーツをたくさん知って広めたい！！	佐久はスイーツの街と言われているけど、具体的にどのようなスイーツが有名かとかはよく知らない。	どのようなスイーツがあるか、どうやって作っているかなどを知り実際に自分たちでも作ってみる
2-2 08	地域の観光地を調べて広めたい。	コスモス街道を県外の人にも地域の人にも知らない人がいるかも知れないから	実際に歩いてみたりして全校からコスモス街道を知っている人がどれくらいいるかを調べる。
1-2 31	佐久の郷土料理を簡単に広げていきたい	安養寺味噌の美味しさなどを知らない人が多いから	直接考えた商品を飲食店（チェーン店X）などに作ってもらえるように交渉する、自分たちでポスターを作り他県の人が多く来る場所（駅やショッピングモール）などに掲示するなど
2-2 17	佐久にある観光地を他の地域に知ってもらいたい。	佐久にある観光地が他の地域の人などにあまり広まっていない。	佐久の観光地の見どころなどをスライドなどで調べ、パンフレットなどで広める。
2-2 23	自然を活かしてきれいな街にしたい。	落ちていくゴミを拾うだけでは、ゴミは減らすことができるけどゴミが捨てられている原因を減らすことはできない。	ゴミについての提示や呼びかけ、活動をして、ゴミが増える根本的なことを減らしていけるようにしたい。
1-2 23	佐久市にある食べ物について知ってもらいたい	佐久にあるコイをあまり食べずにいる人がいない 佐久市以外に広まっていない	コイの良さを調べ良さを活かしたメニューやポスターなどを作る
1-1 12	佐久市の人気スポットを広めたいし、保育園で遊びかかを広めたい	人気スポットは知っているがどのような場所かを知ることができるところなのかを知らない。保育園でもまだ知らない遊びや面白い絵本がある	人気スポットをポスターにまとめて公共の場で貼ってもらおう。面白い遊びや絵本を調べて実際に保育園へ行き一緒に遊んだりする。
2-2 04	佐久市でまだ盛況していないスポーツなどを広めたい	佐久市は運動に対する意識や運動を積極的に行っていくイベントなどが少ないような気がする	いままでのスポーツ関連のイベントなどの情報を集めて、佐久市内で運動を広められるようなイベントなどを開いたり、佐久市が開いてくれるように働きかけたりすること。
1-1 21	地域にあるあまり知られていないお店や場所などをいろいろな人に広めたい	佐久市に住んでいる人がよく知っているものがあり佐久地域以外に広まっていない	佐久地域で人気な店や場所などに行ったり調べたりして佐久地域以外に住んでいる人にもわかりやすく、行ってみようと思ってもらえるようにする
2-1 02	地域にある観光地を広めたい	そのような観光地があまり広められていない事	佐久地域にあるその観光地の情報を集め独自のパンフレットやスライド等を自分たちで作成し発表の時にスライドを発表しつつそのパンフレットを配る

ある観光講座では、3年生リーダーと1年生サブリーダーを中心として、佐久市の「隠れた魅力」を県内に発信することを目標に活動を進めた。活動初期から、生徒たちは地域の方や学校の先生方への聞き取りを行うための計画づくりに取り組み、誰に・どのようなことを聞くべきかを自分たちで整理した。リーダー・サブリーダーが地域の方への連絡役を担い、他のメンバーは調べ学習や資料整理に当たるなど、役割分担をしながら準備が進んだ。先生とのやり取りのなかで「どうすれば多くの人に佐久の良さを伝えられるか」という問いが明確になり、いわゆる“観光名所”ではない場所にも視野を広げる必要性に気づいていった。そこから「隠れ名所」「まだ知られていない面白さ」というキーワードが立ち上がり、探究の軸がはっきりしていった。

実際のフィールドワークでは、地域の寺や商店などを訪ねて話を聞き、歴史的な背景やそこで暮らす人の思いに直接ふれることができた。活動のまとめとして、訪問で得た情報を文章に整理し、チームで共有する作業を行い、次の一步としてどこに何を発信すればよいかを考え直した。また、リーダー・サブリーダーが不在の日には上級生が自然に進行役を担い、活動を深めていった。終盤には、若い世代にも届くようにアウトレットモールなど人の集まる場所にパンフレットを置く案が生まれ、「どうすれば手に取ってもらえるか」という新しい問いにつながっていった。聞く・まとめる・伝えるを繰り返す中で、探究は「地域の良さを知る」から「地域の魅力をどう届けるか」へと深まった。



また、ある食の講座では、「地域のおいしいものをいろいろな人に広めたい」という思いから活動が始まった。3年生のリーダーを中心に地域の食材として昨年度から継続してプルーンに着目していたが、1、2年生からの提案や旬の時期も考えて、初めはりんごや桃を使ったフルーツサンドづくりに取り組んだ。実際に試作しながら「見た人が食べたくなるか」「素材の良さが伝わるか」という視点で工夫を重ねた。一方で、「自分たちが作って食べるだけで本当に地域のためになるのか」「そもそも誰に届けたいのか」という問いも生まれ、活動のめざす相手をはっきりさせる必要に気付いた。そこから、地域の人にはポスターやチラシで、県外の人にはウェブやSNSで伝えるなど、届け方を分ける案が出され、班ごとに役割分担して準備を進めていった。

活動の途中で、「りんごや桃はすでに多くの人に知られている食材ではないか」という振り返りがあり、より伝える意味のある食材として、改めて地域の特産であるプルーンに焦点が移っていった。最終的には“プルーンサンド”を軸に紹介しようという方向が固まり、「プルーンそのもののおいしさを知ってもらおう」という明確な目標が共有された。また、「特産品を食べてもらうことは地域のためになるのか」という問いから、生産者の思いや困っていることにも目を向けようとする姿勢が生まれ、農家の話を聞く必要性も意識されるようになった。こうして活動は、単なる試作品づくりから、「誰に・何を・どのように届けるのか」を問い続けながら改善していく探究のプロセスへと深まっていった。



このように、異学年の生徒同士の対話や担当職員との対話、地域の方との対話を経て、生徒の問いが変容し、「自分たちに何ができるか」という問いから派生した問いを更新し続ける活動になっていった。

【講座名】観光 A

担当職員：小須田 一也

<テーマ> 佐久の観光地をしってもらい、観光客を増やそう。

<ゴール> 色んな観光地に行って、目を引くパンフレットを作ろう。



<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード>

「佐久市の観光地を知ってもらうにはどうすればいいだろう?」「佐久市の魅力を広げるにはどうすればいいだろう?」という問いを持った生徒たちは、「ル・ボミエ」と「RANIKAI」と「新海三社神社」を訪問した。用意していた質問「目玉商品はなんですか?」「どんな工夫がありますか?」を施設の方に訪ね、自分で栽培しているイチゴを使ってケーキを作っていたり、インパクトのあるハンバーグにしたりして、そのお店ならではの工夫をしていることが分かった。そこで、「佐久市の観光地を知ってもらいたい」「佐久の魅力を広げていきたい」という最初に決めた問いに立ち返り、みんなに知られていない情報をパンフレットに載せて魅力を様々な人に伝えていきたいと考えている。

【講座名】観光 B

担当職員：林 深志

<テーマ> 地域の人と交流し、県内に佐久を伝えよう

<ゴール> 佐久市の隠れ名所を主に伝えよう



<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード>

生徒たちは、「佐久市の隠れ名所を県内の人に PR したい」という願いを持ち、地域の方に教わったり、保護者にアンケートをとったりして、7/4の総合の日には、佐久市岩村田にある圓滿寺と佐久市臼田の鳥忠食堂を訪問した。用意していた質問からこれまでの歴史や知ってもらいたい PR などを教わった。最初、圓滿寺では、藤の花ぐらいいしかなかった生徒が、住職のお話を聞き、武田信玄と関わりのあることや矢を防ぐためのずれた造りがわかって驚いていた。他にはどんな歴史的な逸話があるか、さらに調べたくなったようだ。また、鳥忠食堂では、店名の由来やお客さんのために心をこめて料理する思いを知って、よりおいしく味わう姿が見られた。食後には、「おいしかった。」「来てよかった。」「家族でまた来たい。」といった感想が出された。さらに、10/10の2回目の総合の日には、佐久市岩村田の鼻顔稲荷神社やスープパスタコジロー2号店、岩村田城址、花星珈琲店を訪れた。それぞれのお話を聞いたり、インタビューをしたりして、前回以上に地元の人と交流ができたこと、達成感をもつことができた。今後は、どうすれば佐久市岩村田周辺を紹介できるか、工夫しながら楽しいパンフレットづくりをしたいと、一段と意欲的になってきている。

【講座名】 観光 C		担当職員：風間 文哉
<テーマ>	佐久市の観光を SNS を通じて佐久市外の方に良さを発信しよう	
<ゴール>	SNS を通じて動画やパンフレットを作り佐久市外の人にも佐久市の良さを広めよう	
 <問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 佐久市について広めるために、紹介予定の観光地として『鼻顔稲荷神社』と『ぴんころ地蔵』を訪問した。実際に訪れる中で A 生（3 年生）は「誰に佐久市の良さを広めたいのか？」という問いを持ち、講座全体で「市外の若者に佐久市の良さを知ってもらって来てほしい」という願いを共有した。その後、「若者の目を引く佐久市の良さは何か？」という問いから、三大ケーキの町である佐久市の「スイーツ」に焦点を当て、若者が目にしやすい媒体として SNS を通じて発信しようとした。その後、B 生（2 年生）の「写真ではなく、動画の方が臨場感が伝わって見る人が来たいと思うのではないか」という気づきをもとに、動画を中心に撮影し、活動を進めていく事になった。		

【講座名】 観光 D		担当職員：梅田 浩行
<テーマ>	佐久の魅力を再発見し県外の人や外国の人に知ってもらおう	
<ゴール>	地元の中学生からの情報発信としてホームページを作成する	
		
<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード>		
佐久市について、それぞれ興味が一致している者同士で「食」「観光地」「観光施設」「イベント」のグループに分かれた。それぞれの活動に入る前に、ホームページの方向性やたくさんある類似したホームページとどう区別するかという疑問が出てきた。その中で「地元の中学生在が発信する」ことをうたったらどうかという意見が出てきてうなずく姿があった。また、外国の方も視野に入れたいという希望も出てきたことから、英語訳も文章に載せるという方向性が出た。その方向性を共有し、イベントグループでは、佐久市の商工会議所や観光協会のホームページなどを参考に佐久平駅及び周辺の情報を調べた。その中で、佐久平駅周辺の施設はどうなっているのか、どのような利用のされ方なのかという疑問を持ち、実際に佐久平駅を訪れ、周辺取材した。平日ではあったが、駅周辺の公園や文化センターの様子など直に取材し、ホームページの構成・内容をさらに更新することができた。		

【講座名】 観光 E		担当職員：掛川 晃代
<テーマ>	佐久市の観光地を広げるためにイベントを考えよう	
<ゴール>	観光地を広めるために考えたイベントを提案する	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 当初は場所を一か所に限定し、そこでのイベントを考えてまずは学校職員にプレゼンをした。プレゼン後に、「子供が参加したいと思えるイベントだけど、子供だけで参加するとしたら駅からも遠いし参加してもらえるかな?」「移動距離が多いけど、見どころは少ない気がしない?」と問われたC生(3年生)が「参加者の年齢層を幅広くしたい」「佐久市のいろいろな場所を知ってほしい」という願いから佐久市を1日で巡るスタンプラリーを考えることにした。対象を家族連れに設定し、子供が遊べる場所や大人が買い物を楽しめる場所などをコースに取り入れた。その日の振り返りには、「参加する方の視点に立って考えることで、いいコースが考えられた」と書かれていた。

【講座名】 観光 F		担当職員：佐藤 恵理
<テーマ>	佐久市の観光名所を調べて、たくさんの人に関心をもってもらう。	
<ゴール>	実際に観光名所に行き、人に話を聴き、たくさんの人に関心をもってもらうためにはどうしたらいいか課題を見つけて、課題解決に向けて活動する。	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 紹介予定の観光地として『ヒカリゴケ』を訪問した。「ヒカリゴケの魅力は何か」や「ヒカリゴケを広めるためにポスターを作成中ですが、何かできることはありますか?」と文化財保護担当の方に尋ね、「ヒカリゴケには歴史があり、大変貴重な文化財だということ」を知り、「まだヒカリゴケを知らない小学生がたくさんいるかもしれないから、広めてほしいこと」という願いがあることが分かった。それを受けてD生(3年生)が「東中学校区の東小学校や平根小学校の校内にポスターを貼らせていただくのはどうですか」と聞くと、「ぜひお願いしたいです」との返事を得ることができた。そこで、「小学生が行きたくなるようなポスターを作って、小学校に貼らせていただこう」という目標で活動を進めていくことにした。

【講座名】食・郷土料理 ～コイ・郷土食～		担当職員：遠山 浩章
<テーマ>	佐久鯉の良さや料理を学校や地域の人に伝えよう	
<ゴール>	佐久鯉の料理を作って、良さをポスターなどにまとめて伝える	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 全員で鯉料理のレシピを調べ、材料を書き出し、買い出しに行きました。近隣のスーパーでは多大な歓迎を受け、鮮魚売り場の板前さんに生きた元気いっぱいの鯉を見せて頂きました。鯉にまつわるお話を聞き、「いきますよ」の声と共に飛び跳ねる鯉を気絶させ、鱗（うろこ）を取り、あっという間に切り身にしてしまうお仕事に大変感動しました。その後、学校に戻り、調理開始。卵や、白子、鱈まで食材として調理しました。普段、家でもあまり食べることの少ない鯉料理ですが、板前さんのお話にあった「命を頂くこと」を噛みしめながら、しっかりと味わいました。その後、この味と感動をポスターにして、スーパーに飾って頂きました。このおいしさが伝わることを祈って。

【講座名】食・郷土料理 ～安養寺味噌～		担当職員：矢花 千里
<テーマ>	安養寺味噌をより多くの人に知ってもらおう。	
<ゴール>	チラシやポスターなどを作り、多くの人に広める、知ってもらおう。	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 佐久市にしかない安養寺味噌のことを知り、多くの人に知ってほしいという願いで活動をスタートさせた生徒たちは、この名前の由来である地元の安養寺に伺い、住職さんから安養寺味噌の歴史を聞き、驚く姿がありました。また、味噌を使った安養寺味噌ラーメンを食べに行き、ラーメン店主さんからお話を聞いたり、実際に安養寺味噌を作っている和泉屋さんの見学やお話をお聞きすることで、安養寺味噌に対する熱い気持ちに触れることができました。和泉屋さんの見学を通して、E生（3年生）は、文化祭の発表で「味噌の食べ比べ」を提案し、小学生など多くの人に安養寺味噌の魅力を使える活動に結びつけることができました。また、実際に安養寺味噌を使った料理を作ることによってその魅力がよく分かったと感想をもった F 生（2年生）の姿もありました。

【講座名】食・郷土料理 ～プルーン・郷土食材～		担当職員：林 嵩大
<テーマ>	佐久の地域食材の美味しさを一人でも多くの人に広めよう	
<ゴール>	美味しいものを作って、食べていろいろな人に広める	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> G 生（3 年生）が「どんな食べ方を紹介すれば、地域の人たちにプルーンが広まるだろう」という問いに対して、イメージが持てるフルーツサンドがよいのではないかという思考のもと、ドライプルーンや生プルーンでフルーツサンドを作成し比較をした。実際に作って試食をしてみると H 生（3 年生）が「生プルーンで作成したフルーツサンドの方が果物のフレッシュさがあり、プルーンの酸味もよいバランスになっていた」とう発見があった。さらに、「生プルーンを使用してのフルーツサンドがなぜ出回っていないか」という疑問も生じた。プルーンの美味しさがまだ広まっていないという思いから、I 生（1 年生）は HP も利用した方がプルーンのよさがより広まるのではないかという視点の発信があり、Instagram と学校 HP への投稿の双方の視点で活動を行ってる。

【講座名】食・郷土料理 ～スイーツ～		担当職員：山口 美幸
<テーマ>	～スイーツの街☆佐久～ おいしいスイーツを見つけ、いろいろな人に広めよう	
<ゴール>	・特産品を使った誰でも作れるスイーツのレシピを作る ・佐久のスイーツの認知度を上げる ・他学年との関わりをスイーツを通して高める	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 県内で最初に桃を栽培したのは、東中学校区の下平尾地区であることを知った J 生（3 年生）は、桃を使ったゼリーにこだわり計画を進めていきました。下平尾地区の桃をおいしく、多くの人に食べて貰えるように作りやすいレシピ集をつくり、配布することで下平尾地区の桃を広める活動をしました。また、地域にはどんな洋菓子店があるのか実際にお店に行き取材をする中で、店主の願いや地域への思いを知ったリーダーの K 生（3 年生）は「お店の人も、佐久市が好きなんだね」「お菓子の名前は佐久の地名や有名な物だった」と洋菓子店の思いと自分たちの願いの重なる部分を知り嬉しそうにしていました。中学生の目線からの佐久市スイーツの魅力を多くの人に知ってもらえるように、発信の工夫もしていきます。

【講座名】 ゴミ・環境		担当職員：内田 滋
<テーマ>	ゴミ回収計画 ～いつまでもきれいな街へ～	
<ゴール>	ゴミが増える原因を迫及する。	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 地域の環境を良くしたい！きれいにしたい！と願った生徒達が集まり、いつまでもきれいな街につながる取り組みを考えた。まずは、環境の実態を知るために地域のゴミ拾いをし、自分たちが思っていた以上にたくさんのゴミが回収されたことに驚きをもった。どうすればポイ捨てをしない、させない社会を作れるだろうか……。壮大な目標に、なかなかはっきりとした答えは見つからない。見つかっているのなら、成功例があるはず……。それは、一人ひとりの人間の問題かも……。今の私たちにできることは……。ゴミを捨てるのをやめてくれるよう心を込めてポスターを作り訴えることだと考えた。ゴミ拾い調査から分析されたポイ捨て場所に設置し、効果を期待！さてどうなったでしょうか？そして、この活動を通して私たちの誇りと思っていることは、100%貢献につながっているということ！

【講座名】 スポーツ		担当職員：中澤 照夫
<テーマ>	年齢問わず、だれとでも楽しめる色々なスポーツを佐久市に広めよう！	
<ゴール>	イベントやスポーツができる施設で広めていけるような活動をしよう。	
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> テーマから、まず、老若男女で楽しめるようなあまり知られていないスポーツに着目し、ネットを活用しながら候補を拾い出した。その中で、「アルティメット」「ウィッフルボール」「インディアカ」という三種類に絞り込み、Canva にまとめた。そこで話し合いが生まれ、「実際に自分たちがやってみないと面白さを伝えることはできない」と方向性が決まり、動画等を頼りに「アルティメット」のルール理解、技能の向上に数時間かけて取り組んだ。「ウィッフルボール」も同様に、数時間かけてルールの体得と技能の向上に取り組んだ。「インディアカ」はバドミントンとバレーボールを融合したようなスポーツだが、専用のシャトルが高価で入手しがたいことから、除外することとなった。三つのスポーツを通して、準備やスペースの手軽さから「ウィッフルボール」が採用の第一候補となった。

【講座名】 福祉・世代		担当職員：熊谷 修一
<テーマ> 福祉活動で笑顔を増やし、世代の枠を超えて楽しもう！		
<ゴール> いろいろな人と交流し、地域に恩返しする。		
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> 地域のボランティア活動で、介護福祉施設を訪問しました。合唱を披露し、「校歌」や「地球星歌」を歌いました。歌い始めると自然に手拍子が起こり、一緒に口ずさんでくださる方もいて、会場はとても温かい雰囲気に包まれました。演奏後には「懐かしい気持ちになった」「元気をもらえたよ」と笑顔で声をかけていただき、胸がいっぱいになりました。音楽を通して心がつながる喜びを感じ、これからも地域に笑顔を届ける活動を続けていきたいと感じていました。

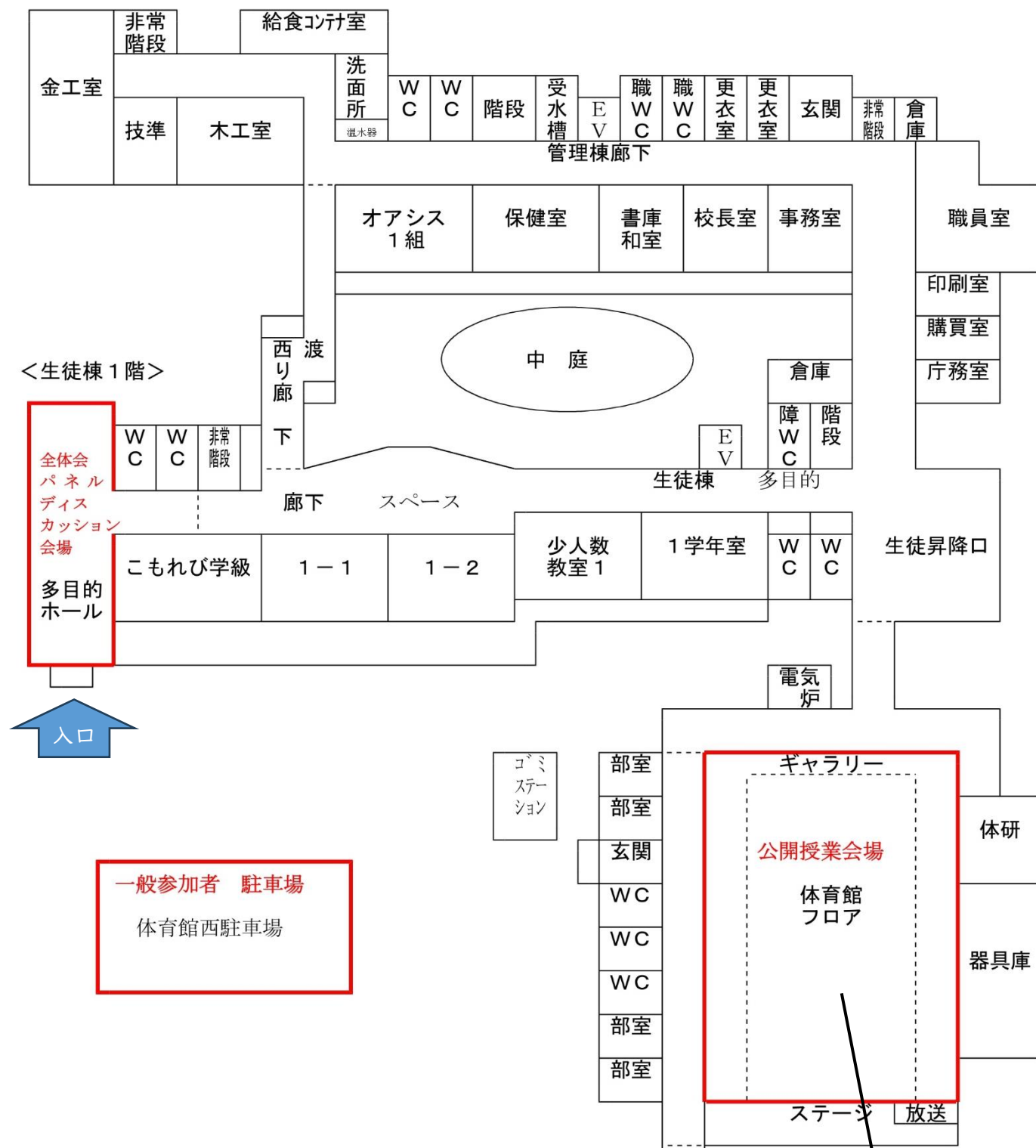
【講座名】 文化・芸術		担当職員：荒井 利香
<テーマ> 佐久の芸術についての理解を深める。		
<ゴール> 地域の人に文化や美術に興味を持ってもらう。		
		<問い続け、問いを更新していく生徒のエピソード> どうすれば地域貢献になるのか、どうすれば魅力を伝えられるのかを考えたときに、実際に佐久市立近代美術館へ伺って学芸員の方からいろいろなお話をお聴きしたり、館内の美術品を自分たちの眼でしっかりと見ておくことが必要だ、と考え、そのような行動を起こしました。以前、調べたときに出てきた画家の作品を見ることができて、感動した生徒もいました。地域の人たちにこういったものがありました、と言って美術館へ行きたくなるような気持ちになっていただけるよう、パンフレットやクイズを作ろう、ということになりました。また、佐久の文化芸術について、何か?と聞かれてもわからない、佐久の文化芸術って何があるの?と疑問に思う人がいるかもしれない、と素朴な思いがわき、皆さんにもっと佐久の文化芸術を知ってもらうために、子ども未来館へも伺って、調べ学習と見学を通して学んだこと、わかったことを紹介したい、ということにもなりました。親子共に楽しめる形で学ぶことができ、佐久の文化といえるような展示品もあって工夫もされているので、満喫してほしいです。

6 校舎案内図・駐車場案内

【校舎案内図】

- 一般参加の先生方は、体育館西側駐車場と校舎北側駐車場へ駐車をお願いします。こちらが満車の場合には隣接する社会体育館の駐車場と南側にある営農センター奥の広場（未舗装）をお使いください。詳細は次頁をご参照ください。体育館西駐車場より多目的ホールへお入り頂き、そちらで受付をお願いします。
- なお、体育館生徒昇降口は保護者・地域の方の受付場所となりますので、ご承知おきください。
- 授業会場は「体育館」になります。授業後、全体会・パネルディスカッションを「多目的ホール」にて行います。

<管理棟 1 階>



【参観される先生方へのお願い】

本時は、生徒との対話に参加していただく形式の授業となります。14 の講座それぞれがこれまでの探究を発表（＝アウトプット）しますので、先生方は質問や意見、助言（＝フィードバック）をお願いします。

【駐車場案内図】

